

私の博物館

博物館では9月8日から11月11日まで、特別展「私の博物館」を開催しています。この特別展の趣旨は、市民の皆さまがお持ちのコレクションや思い出の品々を協働で企画・展示し、気軽にご覧いただくところにあります。

今回は釧路町にお住いの玉手政子さんがお持ちの化石コレクションをご紹介します。当館では平成22年より毎年1回、足寄町動物化石博物館と合同で化石教室を開催しています。観察場所は、畑の肥料や家畜の飼料にするため貝化石を掘り出している、阿寒シエル鉱業の採掘場をお借りして、実施しています。化石教室には釧

路と足寄から毎回合わせて70～90人程が参加しますが、玉手さんは第1回目の化石教室にご夫妻で参加してくださいました。後でお聞きしたところ、初めての化石採集で、タカハシホタテにすっかり魅了されたとのことでした。

タカハシホタテは東北からサハリンにかけて生息していた寒流系の貝類で、新第三紀鮮新世(520～200万年前)に生息していましたが、現在は絶滅していません。ホタテガイの仲間ですが、片側の貝殻(右殻)がもう片方(左殻)に比べひどく湾曲しています。また殻もホタテガイに比べて厚く成貝で約1kgにもなるため、ホタテガイのように泳げなかったと考えられています。

化石教室の後何度もご夫婦で阿寒の採集場所に足を運び、化石を取っては家でハンマーやタガネ、ブラシ等を使いクリーニングをなさったそうです。また、破損した化石はセメダインで接着し、化石がくずれやすい場合などは木工用ボンドを水でうすめてしみこませ、補修したとお聞きしました。

このようにして約500点以上集められた化石の中から、今回はタカハシホタテやエゾギンチャク等の貝化石、カイギュウ類の肋骨化石約150点を展示しています。これらはいずれも玉手さんが採集からクリーニングまで、長い時間を要して作成した大変貴重な化石ばかりです。(山代淳一)

国後島専門家交流訪問に参加して

平成24年4月1日付けで釧路市職員として採用され、博物館に配属されました。加藤ゆき恵です。植物を担当しています。出身は愛知県で、大学進学の際に津軽海峡を越えて北海道に参りました。その後10年以上札幌で学んだり働いたりを繰り返して、この度、縁あって釧路で学芸員として採用していただきました。

動物の勉強がしたいと思って進学した大学でなぜか植物の研究室に進み、北海道の湿原の植物を中心に、植生や生態を研究してきました。また、大学博物館で植物標本庫の管理・運営にも関わる機会があり、このような経験も今後の業務に活かしていきたいと考えています。



4月に着任したばかりではありますが、大学時代の恩師に声をかけていただいて、8月後半に国後島の調査に参加してきました(9年ぶり2度目)。島南部の東沸湖付近と古釜布を拠点として、湿原、海岸、火山カルデラなどさまざまな場所の植物と自然を調査しました。低地の針広混交林や落葉広葉樹林の植生は北海道によく似ていましたが、北海道本島では普通に見られるホオノキやハウチワカエデなどが国後島では分布限界に近いため(択捉島とウルップ島の間)に温帯植物の大きい分布境界があります)希少種であるなどの相違点があり、非常に興味深く感じました。オホーツク海側からは知床

連山が見え、携帯電話の電波も届いていました。また、太平洋に近い場所でも、山の向こうに知床連山が見えたり、夜には羅臼の街灯りが見えたりして、知床から国後島を望むのとはひと味違った「近さ」を実感しました。オホーツク海岸の柱状節理の絶壁の美しさや現地の保護区レンジャーとの交流など、10日間ほどの滞在でも話のネタは尽きませんが、それらを紹介するのは別の機会を待ちたいと思います。

着任早々に国後島に行くなど、若干風変わりなことをしていますが、基本は地に足着けて、地元の植物に関する業務や標本庫管理に地道に取り組んでいく所存です。至らない点も多々あるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

(加藤ゆき恵)